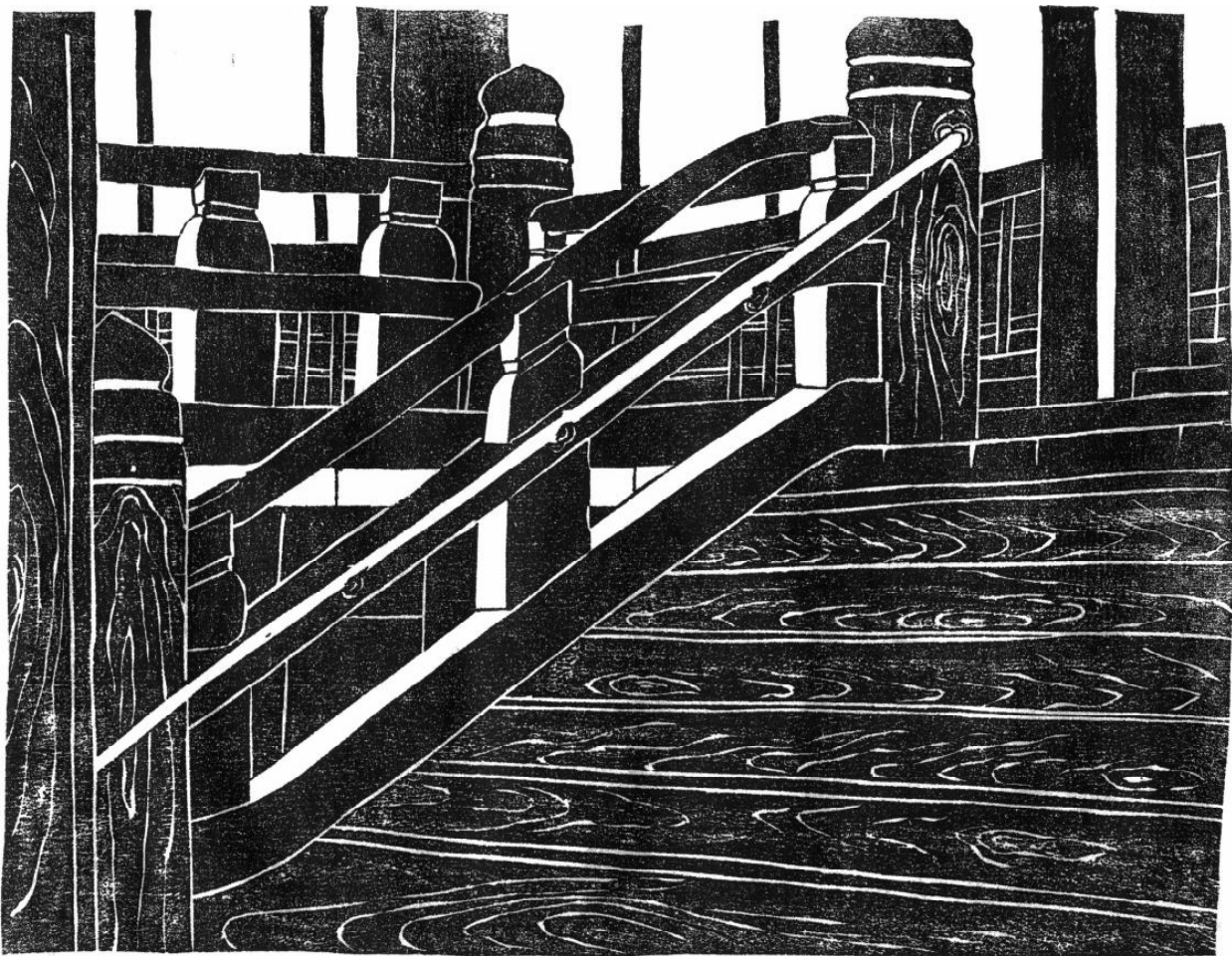


発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



南礼拝場西昇降口

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりが日々に真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加
- ・おぢばへの伏せ込みひのきしん

立教171年
7月号

昨年の8月から今年4月にかけて30次に亘り開催された後継者講習会も無事修了しました。

全教で2万3076人の青年男女が受講され、をやへの思いを新たにされたことと思います。また笠岡大教会では男子103人、女子103人の計206人の方が受講されました。時代を担っていく若者たちにとって、これからは、益々難しい時代になる気がします。何を中心として生きてゆくのか？何を信用してゆけばいいのか混沌とした世の中です。先日新聞に掲載されておりましたが「日本人」という世論調査で何かの宗教を信じている人は、26%。信じていない人は、72%という結果がでました。また、自然の中に人間の力を超えた何かを感じることもあるという人が、56%もいたのです。幸い私たちは、おやさまの教え、お道を歩んでいくという往還道を教えて頂いております。生きていくことが奇跡、ありがたいと思える日々。出世したいとか、立派にならなくても良い。(個人的な思いですが)人間として誠実に生きることが大切だ。これからもどうぞ益々モチベーションを持つて生活させて頂きたいものです。後になりましたが、この講習会に多くの若者を送り出して下さった教会の会長さん・理の親を始め関係者の方々の「尽力に御礼申し上げ、今後も修了者の丹精の上に粘りつよく進まれることをお祈り致します。ありがとうございました。」

(事務局 中島誠治)

* * 後継者講習会 終了 * *

* * * 今後の丹精を

笠岡より 男子103名 参加 * * *
女子103名

後継者講習会を受講して

福年分教会 木梨 直子

私は祖父母の代からの信仰で布教所に生まれ、小さい時からお道の話聞いて育ってきました。しかし、なかなか親の言う事を素直に聞く事が出来ず物事が順調に進んでいる時は信仰の存在を忘れていたのが現状で、特に仕事をする様になつてからは、仕事や私事を優先させる事が多く、信仰をしている事を隠している時期もありました。

今回、結婚を機に退職し後継者講習会を受講させて頂く機会をお与え頂きました。

そこで、練り合いや講義を受け今までの自分を振り返る事が出来ました。節を見せられても信仰しているのに何故？と不足にばかり思い喜べない、大難は小難に、小難を無難にと日々親神様からけっこうな御守護を頂いているのに感謝する心を忘れていた事に気付かされ落ち込むばかりでした。しかし、講義の中で「ほこりは積んでしまうもの、しかし払う事が大切なのである」とお聞かせ頂き、ほこりを積み払う事をしないから節をみせられるのだと、これも親心なのだ、そして、自分の心の使い方に問題があったのだと思わせて頂きました。

これからは、日々けっこうに生活させて頂いて

いる事に感謝し、喜んで通らせて頂きたいと思
います。そして、もっと自分自身が教理を学び、
信仰している事を隠すのではなく「天理教ってど
んな宗教?」と聞かれた時に「私を見て下さい」
と胸を張って言える様に成人していきたいと思
います。

後継者講習会

修了者の集いに参加して

稲倉分教会 北川 祥江

六月一日、大教会で行われた「後継者講習会修
了者の集い」に参加させて頂きました。声を掛け
て頂いたので、いつもの事ながら特に何も考えず
に参加しました。今回の集いはふりかえりの時間
が多くとられており、ねりあい形式でふりかえり
シートにそって進められました。後継者講習会の
時も同様で、講話を聞いてはふりかえり、ビデオ
を見てはふりかえり、ふりかえりの時間がたくさ
んありました。見たり聞いて終わりではなく、人
に自分の考えや思いを話す事によってそれを自分
に言い聞かす事ができ、又、他の人から新しい意
見をもらい、考えをさらに深める事ができました。
後継者講習会を終えた時は親神様のご守護に感
謝し、教祖を身近に感じ、教えを実行していくこ

とが大切だと強く思っただけですが、その気
持ちは維持する事は難しく、せっかくおちばから
持って帰った気持ちであるにもかかわらず、日が
経つにつれ忘れがちになっていました。しかし今
回のふりかえりで再び気持ちを思い出すきっかけ
を頂きました。何でもやりっぱなしではなくふり
かえり、また気持ちを新たに頑張る事が大切だ
なと思えました。思うだけでなくわかった所から実
行に移し、そこから新しい思案をして、また実行
に移す。難しい事ですが自分のできる所からコツ
コツ積みかさね、親神様、教祖にお喜び頂ける通
り方をしていきたいです。まずは親に喜んでもら
えるよう努力していきたいと思っています。

後継者講習会を受講された方から次のような話

を聞きました。「参拝する時今までは親神様、教
祖、御霊様同じように御礼やお願いをしていまし
たが、受講後は教祖には「教祖梅雨に入りました
ね」「教祖今日も暑い一日でしたね」と人と会話
をするように、御存命の教祖と会話をさせても
らっています。』この様な話を聞いて私もそうさ
せて頂こうと思ひ、より身近に教祖を感じながら
日々を通りたいと思ひます。御存命でお働き下さ
る教祖が常に後ろからやさしく後押しして下さっ
ている親心を心にとめ、心配をかけない、喜んで
頂ける通り方をしていきたいと思ひます。
短時間ではありましたが有意義な時間を過ごす
ことができました。ありがとうございました。



修了者に挨拶される大教会長様



真剣にねり合う参加者



楽しい会食



小雨の中を勇んで決行

24日、今回で私にとって3度目の十三峠を歩かせていただきました。小雨の降る中でしたので、急な上り坂で、ぬかるんだ足場に苦勞しながら、日頃の運動不足がたたって息も切れ切れに、それでも頂上につくとその景色と頂上に着いた嬉しさに疲れも吹き飛ばようでした。峠を下る頃には雨もやんで、気づけば

終点の平群西小学校。あっという間の道のりだったように思いましたが、足の疲れは十分感じました。こかん様は17才の時に、この何倍もの距離を歩かれたんだと、改めて当時のこかん様のお姿が偲ばれました。25日、管内学生も合流して、懇親会を開催しまし



た。詰所内を使つての宝探しゲームは白熱し、何ヶ月も前からこの会に向けて準備してきた委員としては、皆に楽しんで貰えて嬉しい気持ちでいっぱいでした。昼食のバーベキューでは、学生会の方々の協力で、色々な種類のお肉、野菜、海鮮に、お好み焼きや焼きそば、サラダ、スイカなど、とても豪華でつい食べ過ぎてしまいました。

こかん様に続く会を開催するにあたり、婦人会の奥様方、青年会、学生会の方々の協力とお心遣いをいただき、お支えいただいたお陰で無事勤めさせていただけだと思います。本当にありがとうございました。
 (女子青年委員長 上原 元子)

5月24日 十三峠越え(高安大教会～平群西小学校 3時間)、神殿参拝、スーパー銭湯(ゆららの湯)、会食(唐揚げ、サラダ、ナポリタン、ウィナー。フルーツポンチ)、お休み行事

5月25日 朝づとめ参拝、支部長様のお話(40分)、回廊拭き(祖霊殿～西礼拝場)、別席、懇親会(ウォーミングアップ、宝探し)、バーベキュー



大教会奥様のお話にも熱心に聞き入る参加者たち





修養科の思いで

亀田山分教会 石田 美保貴

私は知的障害者です。修養科に入ったのはガンの病気になった時手術の前に修養科に、入るという心定めをしてご守護をいただきました。最初は、修養科がどうゆうところか？ わかりませんでした。学校に行ってみて、わかりました。出席番号は二十番でした。

最初にお友達になったのは、ぬかりやこずえさんでした。よく一緒に参拝しました。ほかの皆と食事にいたり、ひのきしんをしたりして、とてもたのしかったです。最初に神殿の掃除をしました。親里館にきました。テストも有りました。むずかしかったです。初めてをびやづとめを見ました。いろんな人におさづけをしてもらいました。神殿でぬかりやさんにおさづけをしてもらって。教祖の前で拜んでいたら背中が温くなってきて驚きました。私もおさづけをさせていただきました。三味線を初めて習いました。

修了式の時皆と神殿でおつとめをしました。その後皆と記念写真を撮りました。皆とお別れするのが淋しかったです。

修養科を終えて

亀田山分教会 新良 佳 永

まず。今年の初めいろいろな事情から、悩んだ日々を過ごしていました。ある知人にいろいろな事を相談していました。その人はお道の人でいろいろなアドバイスをもらいました。去年から良くなれば修養科に入り様々な人たちと出会い、いろいろなことを話し合っ自分を見つめ直したらどうかと言われ、名古屋から松江まできました。教会に来て、参拝の仕方知らない私に一から教えてもらい、一ヶ月近く居ていろいろ習い天理に来てそして修養科に入れてもらいました。

また同じ笠岡の地の修養科生にも会いました。女性の方三人でした。年輩の方と、同じ教会の人と、若い女性の方でした。この四人で三ヶ月頑張ってきました。てをどりすらできない私と違い用木の女性たちの足を引っ張らな



いように頑張ってきたつもりです。学校でも、各地方の方や、年輩の方や歳の離れた若い人たちにこまわってともに、親神様の教えを学び、またいろいろ話し合ってきました。天理教とまったく無縁だった私の中で何か少しづつ変わってきたきがします。まだ心得違とはこりが沢山あるので、おちばでは、親神様の奇跡を体験することは出来ませんでした。クラスの皆に助けられ、また同じ笠岡の女性たちの笑顔に助けられ、三ヶ月頑張った感謝してきます。こんな私ですが何か人のために出来るよう、少しでもほこりをほらい、人さまに喜んでもらえるようにつとめていきたいと考えています。国々に帰ったクラスの皆に負けないように頑張りたいと思っています。まだ用木としてなが出来るかかわかりませんが、教会の会長と名古屋の導きの親と話し合っ、仕事のことやお道のこと、またこれからの人生についてのことを決めていきたいと考えています。修養科の修了が新しい人生の第一歩と考えて一手一つに行きたいと思っています。

最後に同じ笠岡から来られた女性陣の皆様いろいろ有り難うございました。

第13回

キャンプ

たすけあいと創造・さんさいの里。



少年会笠岡団

- と き 8月21日(木)～23日(土) 2泊3日。
21日午後1時大教会集合。
- ところ 奈良市・さんさいの里キャンプ場
- 内 容 キャンプファイヤー、ハイキング、クラフト他。
- 持参品 参加お供3,000円、米3合、野菜1つ、着替え、洗面具、ぼうし、長そでシャツ、ズボン、運動ぐつ、リュック。
- 申込み 8月18日までに大教会(0865-66-1311)
又は、教会まで申し込んで下さい。

※育成者のみなさんへ

さんさいの里は、おちばの近くにある安全なキャンプ場です。夏休みに大自然の中で生きている喜びをこどもたちに体験させてあげてください。この夏お薦めの企画。



第809期修養科募集要項

***修養科期間**

立教171年9月1日～11月27日

***教 養 掛**

- 3ヶ月間 谷 内 伸 自 (大教会役員・輝美濃分教会長)
- 1ヶ月目 三 代 信 行 (米 美 分教会長)
- 2ヶ月目 藤 井 保 人 (福 東 分教会長)
- 3ヶ月目 貞 清 知 実 (三 郡 分教会長)

***募集要項**

- ・志願者は、9月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・8月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、11月29日の昼食後に解散。

***教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

***参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

***携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

***服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」		○	



六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに 自由の御守護を賜り日々は結構に生活させて頂いております 誠に有難く勿体ない極みでございます しかしながら多くの子供達はその真実を知らず 自由と勝手気ままをはき違えて自ら苦しみを招いております その心得違いを知らそうと「にんけんハみなく神のかしものや 神のぢうよふこれをしらんか」と地震や台風や水つき等に現して下さっておりますが 多くの人々は恐れおのののみで 親への感謝の気持ちにまで至る人がいないのは残念であります 私人共は日々親の御守護を感じ喜びと感謝の心で朝夕に御礼申し上げると共に 御恩報じを思い念じて親心と御守護の有難さを伝えるべくにをいがけおたすけにとたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は理のお許しを賜った御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同 喜び心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて六月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに遠近を問わず 寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げると共に 我事は置いてでも世界中で苦しんでいる兄弟の救かりを願う真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年も子供おぢば帰りが近づいてまいりました 一人でも多くの子供に参加して貰えるよう声掛け怠る事なく勤めさせて頂きます 加えて将来おつとめ奉仕者としてつとめて貰えるよう育成にも力注いでまいりたいと思っておりますので 本日祭典に引き続き縦の伝道講習会を開催させて頂きます おぢばの声をしっかりと受け止め 今後の丹精の上に生かして行く所存でございます 又世上を見ますといかにも我身勝手に短絡的な事件が増えていくように思われ 今こそ心の救済が急務でございます まだ布教の行き届いてない事を反省し 今まで以上にをいがけおたすけにと邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には世上の荒波にもまれながらも決して流される事なく 親孝心一筋にたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜り 親心と御守護に気付き 喜びと感謝の心に満ち溢れる人が増殖して お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます



東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

翠巒の風吹きぬける ご神殿

亡母を偲びて孫曾孫まで

▼養徳社発行『陽気』誌六月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「人」、選六十九句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

地位 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

人類のふる里地場や甘露台

▼表紙の版画 東城分教会長 横山 逸郎氏

取り返しのつかぬ口惜しき事の數々

岡 本 久 作

此度婦人會青年會聯合記念總會を開催せらるゝに當り記念品としてパンフレット様のものを拵へたいから何か教話を書けどの御命を受けました。が教話として皆様に讀んで頂くやうのものは書けません。が、私の通つて來ました道中の失敗談の二三を書かして貰つて責を塞ぐ事に致します。

明治四十一年十一月二十七日は本教が一派獨立公認教となりましたので、四十二年一月には教會は悉く改稱せねばならぬ事になりました。其當時私は神邊出張所長を拜命して居りましたので、改稱願に役員と共に上和致しました。而して出張所を支教會と改稱したのであります。が支教會以上は借地借宅にては認可を與へないとの管長公の仰せであるので、壹ヶ年以内に買収するか新築するか支教會としての資格を保てるやう致しますから、と云ふ請書を提出して認可を得たのであります。そこで神邊へ歸りまして役員及部内担任を召集し協議の結果新築する事となり現今の敷地六畝十歩の畑地を買受け、其年に下竹田の學校の建物を買受二階建を一棟無許可で建てました。此時笠岡より淺野彌三郎氏來神され無許可にて建築をする理の缺けたるを叱責せられ、理の道に居つて理を缺いで前途を如何するかと、それは八ヶ間敷き事でありまして、それも我慢で押切つて通り、翌四十三年に建築願の爲岡崎軍治氏引卒の許に大教會迄出

頭し願書提出せし處、宮田先生より懇篤なる御諭しがありました。何様此道は理の道であるか
 ら理を立て切り親神様に十分御守護の頂かれる理を造りて置いてこそ前途の榮へを見さして貰
 ふ事が出来るのや、理は元にあるのやから今神邊の建築を爲して花を持つより其建築の出来る
 費用を一杯笠岡の方へ献納して仕舞へ、そして神邊の普請は神様の御守護を頂いてさして貰へ
 と、順々と理を盡して御諭し下さいましたが我慢強い私しの事でありますから中々得心致しま
 せん。随分理窟をこねました處、次には吉田先生から「言はんは云ふに優るぞよ」と云ふ前置
 から懇々御諭し下さいましたが中々得心しません。次には井筒五三郎會長様から請書を入れて
 あつても管長公へは私しから御話申上げるから理を立てる方が宜いぞよ、と色々御話被下まし
 たが、とふく我慢で押し通して御許を頂き建築をさして頂き、四十四年の二月に奉告祭を執
 行さして頂きました。が二三年経ちますとさあ借錢で責められるやうになり、誠に困難致し
 ました。其時嗚呼上級會長及先生方の御教訓に反き我慢で押通した結果は恐いものや、將來は
 理の道に居つて理を缺いではならぬと沁みく、腦頭に染み付いて居りました。此時の心持を失
 はねばよかつたが少し物事が緩和してくればよい氣分になつて通りた、惜しい事をしましたよ
 それから教會の財政は益々困難に陥り債權者は八ヶ間敷責め立てる、如何ともする事が出来ず
 何とも申譯が立たぬので教會内部の大緊縮を行ひ、總てに亘りて大節約、私しの妻子も役員も
 全部自炊に爲し、只教會にて食事をするものは私しと母と二人丈け、如此にして剩餘金を拵へ

聊か宛にても入金するからとの口實の元に延期を願ふたが、とてもノ入金も出来ませんので世界並の金穀貸付業を營んで居る世羅郡伊尾、島田精之助さんはこんな事で當抵埒が明かぬからとて愈大正七年の秋には家資分散の宣告をすると申込まれ、如何とも爲む術なく役員と協議を爲せば中には御氣毒ですが辞職をして貰ふより外には方法がつかぬと言はれし方もあり、若し右の宣告を受ければ愈々私は御道に死なねばならぬ、生死の境に追ひ追つたのであります。そこで一ヶ所なりとも目口を付けさして頂かねばならぬと朝鮮釜山にて海産物商を營んで居つた、岸本龜三郎氏を頼り相談の結果六百圓の出資を受合呉れたので直ちに歸りて役員會議を開き、整理に着手したのであります。一ヶ月餘りに御守護を頂き、完全整理さして頂きました。此時の氣分ですよ、愈々行詰りのどん底にて私も役員諸氏も眞劍に懸命の決心をなし、一手一つに團結して懸りて御自由用を頂いたのであります。だから愈行詰りのどん底にて一手一つに固まつて眞劍に懸命の努力を爲したなら必ず御守護の頂ける事を實驗して居り乍らもどうも眞劍味が薄いのであの時の氣分を失はなかつたらと思ふ事は度々ありますが、いつも取逃して失敗斗り重ねるのです。現會長様がいつもお前等は眞劍味が無さ過ぎると仰せられますがあの時のやうな眞劍味はほんどうに出ませんです。

それから前會長様の御飯幽前の事でありますが御本部から榊井先生も御越下され尙高知大教會現會長様もお越し下され、色々お諭しを頂き尙大教會より先生方交るく御見舞下され、種々

御教訓を頂き、吾々役員の者協議を重ね大々的決心を致し大神様に御誓ひ申上げたのでしたが、其時の氣持即ち緊張味を今日迄持續して努力さして頂いて居つたら彼の大教會隣地買入にしても、本年大教會長御就任奉告祭の御祝にしても十分なる御守護を頂いて何も騒ぐ事はなかつたであらうと思ふ。返すくも取返しのかね口惜しき事を致しました。こうした失敗談を書けば長い年月の間には限りはありませんが紙數に限りがありますので是れで筆を置きます。

(五、八、二四)

教 是 と 標 語

川 合 梅 太 郎

舊稿、昭和三年四月、婦人會、青年會聯合大會、講話草案

私は去る昭和二年十月、我が笠岡分教會幹部講習會の際、神意の實現と笠岡分教會の將來と云ふ題の下に、一場のお話をさして頂きました。「神意の實現」、實に此問題は意義が廣汎であり且つ深長であるが、之を單に笠岡分教會の上に關係のある神意、即ち我笠岡の上に、神様は如何なる思召を寓せられてあるかと云ふことを考察して次に、「我笠岡の將來」は如何になり行くべきものか、我笠岡を如何なるものと、なさなければならぬものかと云ふことを考へるのが、今回の講習會に當り私共に與えられたる使命、同時に皆様に與えられたる使命であらうと思ふ

と云ふ前置の上に、笠岡に寓せられたる神意、即ち教是(後に詳説する)に就いて、可なり詳しい説明を致しました。其内容を今重ねて簡単に述べますならば、凡そお地場は人間始め世界始めた、元の地場、元の屋敷である。本部は天理教の信仰行政一切の首脳部である。本部たる首脳部は此故に、お地場を離れて存在すべきものではない、近來種々な反天理教運動が起つて居るのは、全部間違ひである。更に本部は精神的更生の道場である、詳言すれば恩報じの場所、打明けの場所、談示の場所、助けの場所此等の方法によつて精神的に更生するのである、本部は精神的更生の道場であると同時に、元の屋敷、元の地場、人間宿仕込みの元の親里、此所で親子の対面をする所である、故に本部へ行くのは参るのでなく歸るのである、本教に本部及び一般教會に参ることを、参ると云はず歸ると云ふのは其爲である。一般教會は本部の出張り場所、本部の延長である、本部と同様、之れ又地方に於ける元の屋敷、元の地場である、精神的更生の道場、恩報じ場所、打明け場所、談示場所、助け場所である、茲に親様たる神様が出張して、親子の対面をなし下さる、故に一般教會へも参るのでなく歸るのである。元の地場、元の屋敷たる本部で、宿仕込まれた人間を、七十五日かゝつて地方へ生みおろされた、其生みおろしの場所が國々の宮地、墓所であるとの事である、今日の教會も或は九億九万歳の昔に、生みおろされた、生みおろしの地場ではなかつたであらうか、此故に教會は人間力で出来たのではない、會長が、所長が、役員が、周旋方が作つたのではない、神様が思召あつて出

張せられる可く作られたのである。以上の如くであるから一般教會は、本部の延長である云ふのである。更に本部は雛形、鏡屋敷と云ふのであるから、地方の教會も雛形、鏡屋敷である筈である。雛形、手本には、間違あつては駄目、鏡は、曇つて居つては物が寫らぬ、即ち共に用をなさぬようでは駄目である、故に雛形、鏡屋敷たる教會は、間違はぬよう、曇らぬようにせねばならぬ。神様のお話に人が目とか、神が目とかと云ふのがある、神様を目ととして行くのは勿論であるが、然し教會とか、教會長とか云ふ人、或は物質、目に見えるものを通じて神様を目とするのであるから、教會及教會長は雛形、手本、鏡となるよう清淨化し、眞正化させねばならぬ。以上の諸條件が、完全に具備して始めて眞の教會であり、眞の教會長である本部、お地場の寫しである、完全なお地場の縮圖といへよう。と、先づお地場並に一般教會の意義を詳説し、更に、神様は、いかほどの強敵あらば出して見よ、神の方には倍の力やと云ふお言葉を示され、教祖は又、屢々之を實驗された、何たる力強いお言葉であらう、之は獨り教祖であり、お地場であるからではない、一般教會へも一般助け人數へも下さつたお言葉と解して差支はないと思ふ。更に世界中蚊の啼くような日柄がある、くつしやみころり、どんころり一人の病人に醫者五人、其後へ天理教の助け醫者、日本の國を黒船で取巻く日がある、あしきを拂うてどうぞむほんすつきりはやく治めたすけたまへ天理王の命と、肉腕振つて行く日がある、と仰せられた、之は一つの譬えと解してよかるう、夫れにしても、何たる悲愴のお言葉で

・原・稿・募・集・

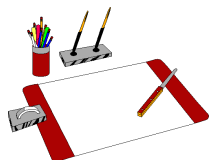
内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

寄 稿 先



下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

F A X：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

大教会だより

◎第八〇四期修養科一期講師

自 立教171年4月1日
至 立教171年6月27日
川島郷 香取雅人



インターネットで様々な情報を検索することを「ウェブ検索」といい、そのサービスを提供してくれるシステムを「検索エンジン」、検索エンジンに引掛かることを「ヒットする」という。

「グーグル」という検索エンジンで「天理教」という用語をウェブ検索すると、1番にヒットするのは「天理教ホームページ」である。

5番目に「天理教の誤りを……」なるホームページを見つけたので、好奇心を旺盛にしてクリックしてみると、「邪法たる所以」なる記事があって、《天理教では『泥海古記』なる神話に、「どじょうが人間のたねであった」などと、荒唐無稽な珍

説を並べています。》と記されていた。

「荒唐無稽」とは「でたらめ」というような意味であるが、荒唐無稽と思うか否かは、事の真偽ではなくて、一人ひとりの人間の資質や感性のよ

うな気がするが、どうだろうか？
『教祖伝』第六章に《教祖は、「学問に無い、古い九億九万六千年間のこと、世界へ教えたい。」と仰せられた。》とある。

また、《(天理王命の姿は)あるといえばある、ないといえばない、願う心の誠から見える利益が神の姿や》と仰ったとも伝わる(『正文遺韻』266頁)。

「荒唐無稽な珍説」と記したのは一仏教徒だが、我々天理教徒はどう思っているのだろうか？ 私にとっては、その方が甚だ疑問だ。

世界で最も権威のある総合学術雑誌のひとつ英科学誌『ネイチャー』の6月19日付の記事によると、《ヒトなど脊椎動物の祖先は……ナメクジウオ類であることが、ナメクジウオの全遺伝情報(ゲノム)解読で分かった。》とのことである。

私には、「どちよ(どちよ)」と「ナメクジウオ」の違いは分からないが、「うゝかりとくらしい」と、信仰が万能科学に先を越される日がくるかも知れない……。

(お)